

韓国人日本語学習者の授受表現の習得について

— 「もらう」系と「くれる」系を中心に—

稲熊美保*

A Study on the Acquisition of Japanese Benefactives by Korean Learners of Japanese: Focusing on “*morau*” Category and “*kureru*” Category

INAGUMA Miho*

Abstract

The purpose of this study is to clarify the difficulties of Japanese benefactives for Korean learners of Japanese, focusing on the role of L1 (first language) in SLA (second language acquisition) .

After the contrastive analysis of benefactive system between Japanese and Korean language, the experiment on the state of acquisition of “*morau*” category and “*kureru*” category was done. The result showed that the acquisition of “*-te morau*” and “*-te itadaku*,” the uses of “*morau*” as an auxiliary verb, takes more time than “*kureru*,” which has been said to be the most difficult verb among the benefactive expressions. This study clarified that the possible difficulties in SLA can be predicted through examining the degree of typological markedness and the contrastive analysis on L1 and the target language.

1 はじめに

日本語と韓国語は語順や助詞の使い方などの文法構造が似ており、語彙も漢語を中心として語源を同じくするものが多いため、韓国では、日本語が学びやすい外国語として人気が高く、高等学校の第2外国語や大学での専攻および教養科目として好んで選択される。しかし、「日本語と韓国語はよく似ているから、韓国人にとって日本語は学びやすい」というのは果たして事実なのだろうか。似ているのに難しい、あるいは似ているからこそ難しい点もあるはずである。

どのような点がどのように学習しにくいのか、またその難しさは一体なぜ現れるのであろうか。

第二言語としての日本語学習において、学習者が母語に関係なく困難さを感じる項目の一つに授受表現があり、これは韓国人の日本語学習者にとっても難しい項目と言われている。本稿では、韓国人学習者にとって日本語の授受表現が、なぜ、どのように難しいのかを母語である韓国語との関係に焦点を当てて考察し、その習得過程を明らかにしたい。

* 国際開発研究科国際コミュニケーション専攻博士後期課程

II 先行研究

1 日本語学習者による授受表現の習得

堀口(1983)は、さまざまな母語の日本語学習者の作文やテスト、レポート、誤用例集などから授受表現に関わる誤りを整理し、「あげる」と「くれる」の間の混乱による誤用が多いと同時に、「～てあげる」を過剰に使用して押し付けがましい印象を与えてしまう誤用も非常に多いことを指摘している。

坂本・岡田(1996)は、英語・中国語・ベトナム語などを母語とする学習者の誤用に関して調査を行い、①「あげる」→②「もらう」→③「くれる」の順に習得が進むとし、また岡田(1997)は談話レベルでの運用においても授受表現の習得順序は、①「あげる」「～てあげる」→②「もらう」・「～てもらう」→③「くれる」→④「～てくれる」であるとしている。

いずれの調査結果からも、日本語の授受表現の中では「くれる」の視点表示に関わる表現の習得の難しさが顕著となっているようである。ただし、その難しさの理由について詳しくは言及されておらず、補助動詞的な用法や敬語要素を含む表現まで十分な検討がされているとは言い難い。

2 第二言語の習得に与える母語の影響

第二言語習得で最も難しいのは、母語と目標言語が大幅に異なっている点ではなく、むしろ似通っていて微妙に異なっている点にあることが多いと言われている。第二言語習得における母語の役割については、母語と目標言語の間の言語的な距離(Odlin 1989)や学習者のレベル(Larsen-

Freeman and Long 1991)ほか、多くの要因が関係していると言われるが、本稿では有標性に関わる仮説を取り上げる。

Eckman(1977)は言語類型論での含意的普遍性の観点から、第二言語学習における困難さは母語と目標言語の間に存在する有標性¹の差によって生じるとし、有標性弁別仮説(Markedness Differential Hypothesis)において次の3点を仮定している。

- ①目標言語の領域が母語と異なっていて、より有標である場合には、その領域の学習は難しい。
- ②①のような領域の困難性の相対的度合は、有標性の相対的度合を反映する。
- ③目標言語の領域が母語と異なっても、それが母語よりも有標でない場合には、学習は困難ではない。

また、心理的な要素を指摘した、Kellerman(1983)によれば、第二言語習得における母語からの転移は、「母語と目標言語が心理類型論的に近いと認識され、母語のある項目が心理的に無標であると判断されたときに起きる」とされており、①「母語と目標言語が十分に無関係であると把握されるとき」、および②「母語のある構造が十分に有標であると把握されるとき」は転移の生起は制限されるという。

つまり、母語と目標言語の間に存在する有標性の差によって第二言語の習得に母語が転移するかどうか左右されるが、心理類型論的な有標性もこれに関与しているということである。

III 授受表現の日韓対照

1 日本語の授受表現

本稿では日本語の授受表現を、待遇表現や話者の視点表示、補助動詞的な用法に関して、「もらう」系、「くれる」系、および「あげる」系の三つの系列に分類して記述を行うことにする。

1-1 「もらう」系

「もらう」系授受表現における主語は、話者に近い「ウチ」²の立場にある、行為の「受け手」であり、話者の視点はその主語の「受け手」寄りである。

本動詞として、「もらう」と、非主語の位置にある、行為の「与え手」に対する尊敬の要素を含む「いただく」という謙讓表現がある。「もらう」にも「いただく」にも補助

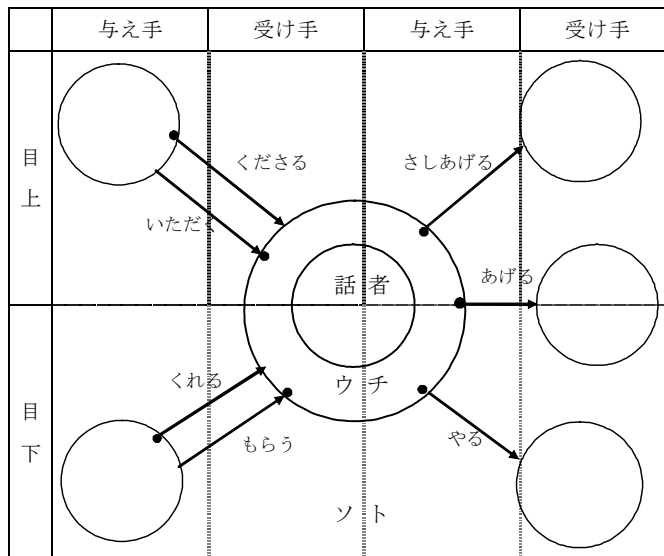
動詞的な用法である「～てもらう」、「～ていただく」という表現もある。また、「受け手」である主語に対する尊敬の要素を含む表現としては「おもらいになる」が考えられるが、他の授受表現とは異なり一語の動詞ではない派生的表現であるため本稿では扱わない。

1-2 「くれる」系

「くれる」系授受表現における主語は「与え手」であり、話者の視点は非主語の位置にある「受け手」寄りである。つまり、「与え手」は「受け手」より常に「ソト」側寄りの人物でなければならない。

本動詞としては「くれる」と、「与え手」である主語に対する尊敬の要素を含む「くださる」がある。これらの補助動詞的な用法は、「～てくれる」と「～てくださる」である。

図1 日本語の授受動詞



●は主語 (例えば「くださる」なら目上の与え手が主語)

(奥津 1989 より)

1-3 「あげる」系

「あげる」系授受表現は、「与え手」を主語におき、話者の視点が中立または主語寄りである。「くれる」系とは逆に、「受け手」が「与え手」よりも「ウチ」側つまり話者寄りの人物にはなり得ない。

最も基本的な本動詞として、「あげる」および「やる」があり³、非主語の「受け手」に対する尊敬の要素を含む動詞が「さしあげる」である。また、「与え手」である主語に対して敬意が込められた表現が「おやりになる」「おあげになる」であるが、派生的な表現であるため本稿では扱わない。

「あげる」系授受表現の補助動詞的用法には、「～てあげる」および「～てやる」、「～てさしあげる」があるが、これらの補助動詞的用法は通常、行為（およびその行為の結果生じる恩恵）の受け手が聞き手である場合、その聞き手が話し手の親しい相手でない限り目の前の相手（聞き手）に対しては通常使わない。この点に関しては、稿を改め詳しく検討する。

以上の日本語授受表現における本動詞を図示したものが図1である。

2 韓国語の授受表現

韓国語においては「授受表現」という名称は見られないが、日本語の授受表現に相当する動詞群を取り上げて検討することにする。それらの動詞では日本語の授受表現のように話者の視点は関係がないため「ウチ」・「ソト」が絡んでくることはないが、待遇表現と補助動詞的用法は使われている。

まず、基本的な授受表現として「受け手」主語の「받다 (batta)」(概ね、日本語の「もらう」に相当)と「与え手」主語の「주다

(juda)」(概ね、日本語の「あげる」と「くれる」に相当)がある。前述のように話者の視点表示つまり「ウチ」・「ソト」に関わらず、「受け手」が主語であれば「받다 (batta)」、「与え手」が主語であれば「주다 (juda)」を常に使うことができる。

これらの主語に対する尊敬の要素を「-시(-si-)」という接辞を含んで表した動詞が「받으시다 (badusida)」および「주시다 (jusida)」である。つまり、「받으시다 (badusida)」は「受け手」である主語に対する尊敬形（概ね、日本語の「おもらいになる」「お受け取りになる」に相当)で、「주시다 (jusida)」は「与え手」である主語に対する尊敬形（概ね、日本語の「くださる」に相当)ということである。また、「与え手」が主語であり、非主語の位置にある「受け手」に対する尊敬の要素を含む「드리다 (durida)」(概ね、日本語の「さしあげる」に相当)という動詞も存在する。その「드리다 (durida)」の主語に対する尊敬形としてさらに「드리시다 (durisida)」があるが、これは日本語で言えば「おさしあげになる」というような意味になり、与え手と受け手の両者を高める表現である。

「주다 (juda)」と「주시다 (jusida)」、「드리다 (durida)」「드리시다 (durisida)」には補助動詞的な用法があり、日常的に使われる。補助動詞的用法の「～해 주다 (juda)」(概ね、日本語の「～てあげる」に相当)も「～해 드리다 (durida)」(概ね、日本語の「～てさしあげる」に相当)も目の前の相手に対して使っても押しつけがましきは全くなく、さらに「～해 드리다 (durida)」は謙譲の意味さえ含んでいる。一方、「받다 (batta)」の補助動詞的用法は、

表1 日・韓両言語の授受表現

	日本語						韓国語					
	与え手主語			受け手主語			与え手主語			受け手主語		
視点	平待	恭待	謙讓	平待	恭待	謙讓	平待	恭待	謙讓	平待	恭待	謙讓
与え手	あげる やる		さしあげる				주다	주시다	드리다 드리시다			
受け手	くれる	くださる		もらう		いただく	주다 주시다	주시다		받다	받으시다	
中立	あげる やる		さしあげる	もらう		いただく	주다	주시다	드리다 드리시다	받다	받으시다	

(서울大學校語學研究所1988に基づく)

受け手の意味を持つ一部の慣用的表現である「訪問받다」、「歓迎받다」、「注意받다」、「質問받다」、「尊敬받다」などの「漢語名詞+받다」を除いて一般的に許容されない(鄭1994, 黄1991)。しかもこれはあくまでも受身的な意味である上に一般動詞に接続されているわけでもなく、日本語の「～てもらう」のような恩恵の授受の表現には相当しない。

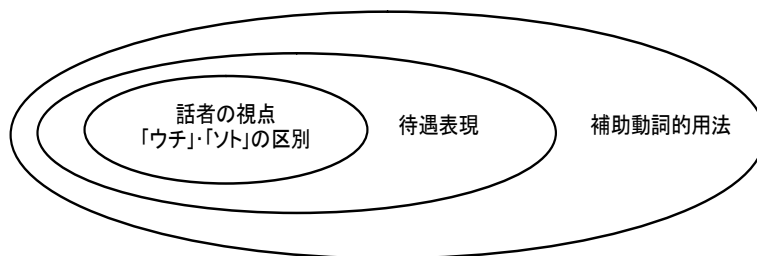
表1は授受表現の本動詞が日韓両言語においてどのような素性を持っているかを対照して示したものである。これは補助動詞的用法を含まない本動詞のみに関するものであるが、韓国語では尊敬要素の有無に関わる表現の種類が豊富であることが分かる。この表において空欄の部分が韓国語より日本語のほうに多くはなっているが、全体としては日本語のほうに授受表現のシステムは複雑になっていると言うことができる。その理由は、まず、韓国語には「くださる」のように視点表示による区別がないために「与え手主語」の「恭待」がすべて「주시다(jusida)」となっていることと、もう一点は韓国語の「받으시다(badusida)」は日本語で概ね、「おもらいになる」や「お受け取りになる」というように訳すことがで

きても、日本語の「いただく」を韓国語に訳すことはできないということの二点からである。

以上のような日本語の授受表現との対照から、韓国語の授受表現には、以下のような特徴があると言えよう。

- ①日本語授受表現の「くれる」系に見られるように「ソト」側の人物の行為を「ウチ」側(話者寄り)の視点で表示する語はない⁴。
→「くれる」系授受表現が「あげる」系と区別されない。
- ②「いただく」のように、「受け手」が主語でありながら「与え手」である非主語に対する敬意を表す敬語はない。→「いただく」、「～ていただく」に相当する表現が欠如している。
- ③「～てもらう」、「～ていただく」に相当する「受け手」主語の授受表現の補助動詞的用法「～해 받다(batta)」は、一般的に容認されない。→「～てもらう」、「～ていただく」に相当する表現が欠如している。
- ④「～てやる」、「～てあげる」、「～てさしあげる」に相当する「～해 주다(juda)」および「～해 드리다(durida)」は常に目前の相手(聞き手)に対して使うことができる。→「～てやる」、「～てあげる」、

図2 授受表現の有標性階層



「～てさしあげる」とは用法が異なる。

IV 仮説

ここで、授受表現に関して有標性の階層を考えてみると、韓国語は日本語の持つ素性から「ウチ」・「ソト」素性を除いた体系を持ち、中国語・タイ語では、待遇素性を引き去った体系であり、英語はさらに補助動詞的な用法も持たない体系である（奥津 1979, 1983, 奥津・徐 1981, 江田 1982）ことから、授受表現の相当表現に関して、これら日本語、韓国語、中国語、タイ語、英語の5言語に基づけば、授受表現に相当する表現では、「与え手」と「受け手」の区別を持つことを前提として、①話者の視点の「ウチ」・「ソト」の区別②待遇表現③補助動詞的用法という階層が考えられる。これを図示すると図2のようになる。

以上のことから、韓国人日本語学習者の授受表現学習の困難さに関して次のような仮説が立てられる。

- ①主語が「ソト」で話者の視点が「ウチ」にあるという点で有標な「くれる」系の表現すなわち「(～て) くれる」、「(～て) くださる」はすべて学習が困難である。
- ②「受け手」主語の構文で非主語尊敬という有標の素性を持つ「いただく」、「～ていた

だく」は、学習が困難である。

- ③韓国語にはない「受け手」主語の授受表現の補助動詞的用法であるという点で有標な表現「～てもらう」、「～ていただく」は、学習が困難である。

- ④補助動詞的用法の「～てやる」、「～てあげる」、「～てさしあげる」が「～해 주다 (juda)」、「～해 드리다 (durida)」と意味的に素性が似ているため、心理類型的に近いと認識されて母語である韓国語からの負の転移（干渉）が起これ、目の前の相手に使用して押し付けがましいと思われる誤りを犯す。

ところで、このような母語と目標言語との対応関係に関して野田他（2001:87）は「対応」<「統合」<「削除」<「導入」<「分化」の順⁵に習得の難易度が上がるとしており、日本語の授受表現で言えば、韓国人にとって「くれる」系は「分化」、「もらう」系の補助動詞的用法は「導入」であるため、「くれる」系のほうが難しいであろうと考えられる。

V 調査方法

前節での仮説を検証するため韓国の大学生を対象とする調査を行った。ここではその調査の概要を説明する。

1 被験者

韓国ソウル市にある淑明女子大学校で2003年度前期(3月から6月)に開講された基礎日本語会話Ⅰおよび高級日本語Ⅰ(昼・夜)の計3クラスの受講生を対象に、筆者自ら OPI (Oral Proficiency Interview) を行い、日本語口頭表現能力を判定した⁶。その結果に基づき、合計 69 人の被験者をレベル1(初級-中、初級-上、中級-下)、レベル2(中級-中、中級-上)、レベル3(上級-下、上級-中)、レベル4(上級-上、超級)の4つのレベルに分けた。レベル1は18人、レベル2は19人、レベル3は22人、レベル4は10人である。被験者は全員女性で、平均年齢は22.1歳であった。

2 調査項目

前節において挙げた四つの仮説のうち、仮説④の「あげる」系授受表現補助動詞的用法に関しては、その語自体の習得というよりは用法の習得にかかわる問題であって、若干性質が異なるため稿を改めて述べることとし、本稿では仮説①から仮説③すなわち「もらう」系および「くれる」系授受表現の習得について検証する。

調査は、単文一つまたは二つからなる問題文の授受表現の部分を、文脈に合わせて四つの選択肢から選ぶように指示して行った。「もらう」系授受表現4種(「もらう」、「～ってもらう」、「いただく」、「～ていただく」)および「くれる」系授受表現4種(「くれる」、「～てくれる」、「くださる」、「～てくださる」)をそれぞれ6問ずつ出題し、各被験者の項目毎の得点を1問1点とし、6点満点で算出した得点を用いた。

VI 結果と考察

1 各項目内のレベル別平均の差

それぞれの表現項目毎のレベル別の平均得点(各被験者の6点満点中の得点を平均して算出)および標準偏差を算出し、各項目内においてレベル間に平均得点の差があるかどうか、一元配置分散分析を行った。その結果は表2の通りである。

この表から分かるように「もらう」と「くれる」においてはレベル間に有意な差は見られなかった。一方、敬語要素を含む「いただく」と「くださる」では5%水準で、補助動詞的用法の「～ってもらう」、「～ていただく」、「～てくれる」、「～てくださる」では1%水準で有意な差が見られた。

有意な差が見られなかった「もらう」と「くれる」を除いたそれ以外の6項目において、LSD法による多重比較を行った結果、表3から表8に示すようにレベル間で有意な差が見られた。

以上の結果から考えられることは、「もらう」系および「くれる」系それぞれの最も基本的な本動詞「もらう」と「くれる」の習得は、それ以外の敬語要素を含む表現や補助動詞的用法よりもレベルによる格差が小さいということ、すなわち OPI レベルが高いと判定される学習者が授受表現の習得が進んでいると仮定すれば、OPI レベルの中級-中に上がる以前(レベル1の段階)に「もらう」と「くれる」を使うべき適切な文脈を見極めることができるようになっていくということになる。またレベル1とレベル2以上の間に有意な差が見られる表現(「～ていただく」、「～てくれる」、「くださる」)は、OPI の中級-下から中級

表2 各項目のレベル別平均得点およびF比

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	合計	F
	(N=18)	(N=19)	(N=22)	(N=10)	(N=69)	
	平均点 (SD)	平均点 (SD)	平均点 (SD)	平均点 (SD)	平均点 (SD)	
もらう	4.94 (1.06)	5.58 (0.84)	5.50 (0.91)	5.70 (0.48)	5.41 (0.91)	2.312
~てもらう	3.83 (1.82)	4.79 (1.08)	5.55 (0.96)	5.90 (0.32)	4.94 (1.42)	8.788**
いただく	4.28 (2.08)	5.00 (1.60)	5.55 (1.18)	5.90 (0.32)	5.12 (1.60)	3.338*
~ていただく	3.50 (1.89)	4.89 (1.56)	5.63 (0.66)	5.70 (0.67)	4.88 (1.59)	9.884**
くれる	4.78 (1.11)	5.16 (1.46)	5.45 (1.06)	5.60 (0.70)	5.22 (1.17)	1.574
~てくれる	4.28 (1.56)	5.05 (1.18)	5.45 (0.86)	5.60 (0.70)	5.06 (1.23)	4.352**
くださる	3.94 (2.07)	4.95 (1.62)	5.32 (1.09)	5.70 (0.67)	4.91 (1.61)	3.891*
~てくださる	4.06 (2.13)	4.58 (2.01)	5.50 (1.10)	6.00 (0.00)	4.94 (1.76)	4.293**

*p<.05 **p<.01

表3 「~てもらう」の多重比較結果

~てもらう	レベル2	レベル3	レベル4
レベル1	*	**	**
レベル2	-		*
レベル3		-	
レベル4			-

*p<.05 **p<.01

表4 「~いただく」の多重比較結果

~いただく	レベル2	レベル3	レベル4
レベル1		*	**
レベル2	-		
レベル3		-	
レベル4			-

*p<.05 **p<.01

表5 「~ていただく」の多重比較結果

~ていただく	レベル2	レベル3	レベル4
レベル1	**	**	**
レベル2	-		
レベル3		-	
レベル4			-

**p<.01

表6 「~てくれる」の多重比較結果

~てくれる	レベル2	レベル3	レベル4
レベル1	*	**	**
レベル2	-		
レベル3		-	
レベル4			-

*p<.05 **p<.01

表7 「くださる」の多重比較結果

くださる	レベル2	レベル3	レベル4
レベル1	*	**	**
レベル2	-		
レベル3		-	
レベル4			-

*p<.05 **p<.01

表8 「~てくださる」の多重比較結果

~てくださる	レベル2	レベル3	レベル4
レベル1		**	**
レベル2	-		*
レベル3		-	
レベル4			-

*p<.05 **p<.01

一中へ上がる時に顕著に習得が進む項目である。そしてレベル1とレベル3、レベル1と4との間に有意な差がある「いただく」はレベル2の段階すなわち中級一中から中級一上にかけて上達するにつれて習得が進んでいくものと解釈ができる。「~てくださる」の場合にはさらにレベル2とレベル4の間にも有意な差があることから、レベル2から3の間すなわち中級一中から上級一中まで上達する間にゆるやかに少しずつ習得されていくようである。

表3の「~てもらう」の結果は段階を追って上達する様子を最もよく表しているが、

レベル1とレベル2、レベル3、レベル4の間と、レベル2とレベル4の間に有意な差があるということは、レベル1と2の境界すなわち中級一中に上がる段階で理解が進み、その後上級一中、上級一上の辺りで定着してくるものと考えられるだろう。

2 各項目間のレベル別平均の差

次に、各表現項目の間でレベル毎に平均得点の差が見られるかどうかt検定を行った。検定を行った表現項目の対は、互いに、「受け手」主語か「与え手」主語か、尊敬要素

の有無、本動詞か補助動詞的用法かのいずれかの対立を持つものとし、①「もらう」と「～てもらう」、②「もらう」と「いただく」、③「もらう」と「くれる」、④「～てもらう」と「～ていただく」、⑤「～てもらう」と「～てくれる」、⑥「いただく」と「～ていただく」、⑦「いただく」と「くださる」、⑧「～ていただく」と「～てくださる」、⑨「くれる」と「～てくれる」、⑩「くれる」と「くださる」、⑪「～てくれる」と「～てくださる」、⑫「くださる」と「～てくださる」の全12パターンを取り上げた。

その結果、レベル1とレベル2において「もらう」と「～てもらう」の間に、またレベル1においては「いただく」と「～ていただく」の間にも平均得点に有意な差が見られた。レベル3以上ではいずれの対においても有意な差は見られなかった。レベル1とレベル2の検定結果を表9と表10に

示す⁷。

「いただく」と「～ていただく」の間で平均得点に有意な差がレベル1においてのみ見られ、レベル2以上では見られないということは、初級段階においては「いただく」よりも「～ていただく」の方が難しい項目ではあるものの、一旦「いただく」を理解してしまえば「～ていただく」の習得も困難ではないということである。一方、「もらう」と「～てもらう」の間の平均得点の差がレベル1とレベル2において有意に見られたということは、たとえ「もらう」を習得していたとしても、「～てもらう」を習得しているとは限らず、上級レベルになってようやく「もらう」と同程度に「～てもらう」を身につけるということになる。レベル1においてもレベル2においても「もらう」と「くれる」や「もらう」と「いただく」の間にも有意な差が見られないということは、「もらう」系の補助動

表9 レベル1における項目間の平均得点の差 t 値 (両側検定、df=17)

レベル1	もらう	～てもらう	いただく	～ていただく	くれる	～てくれる	くださる	～てくださる
もらう	—	2.812*	1.481		-0.546			
～てもらう		—		1.031		0.867		
いただく			—	3.757**			-0.842	
～ていただく				—				1.528
くれる					—	1.534	2.093†	
～てくれる						—		0.622
くださる							—	-0.566
～てくださる								—

†p<.10 *p<.05 **p<.01

表10 レベル2における項目間の平均得点の差 t 値 (両側検定、df=18)

レベル2	もらう	～てもらう	いただく	～ていただく	くれる	～てくれる	くださる	～てくださる
もらう	—	3.525**	1.640		-1.140			
～てもらう		—		-0.335		0.754		
いただく			—	0.325			-0.149	
～ていただく				—				-0.946
くれる					—	0.383	0.515	
～てくれる						—		1.057
くださる							—	1.508
～てくださる								—

**p<.01

詞的用法「～てもらう」および「～ていただく」は、初級段階の学習者にとっては「くれる」系授受表現や、単に敬語要素だけを含むもの、例えば「いただく」よりも難しい学習項目であるということが言える。

3 考察

以上の結果をもとに、韓国人日本語学習者の授受表現習得における問題点をまとめてみたい。

日韓両言語の対照研究からは「くれる」系表現、つまり授受表現における話者の視点表示が韓国語に全く存在しないわけではないことが分かっている⁸。そして表1からも明らかなように「くれる」や「～てくれる」、「くださる」、「～てくださる」に相当する表現が存在しないわけではない。ということは「くれる」系授受表現は全く白紙の状態から習得が進むわけではなく、「与え手」主語という意味で同じ表現である「あげる」系、そして「受け手」が「ウチ」側の人物であるという意味で同じ「もらう」系の授受表現との「区別」を学習し習得するということになる。しかし、一方「もらう」系授受表現のなかで、韓国語での表現に意味的に一致するものは「もらう」しかないのである。韓国語の「受け手」主語の授受表現には、主語尊敬の要素を含む「받으시다 (badusida)」はあっても、非主語の「与え手」尊敬つまり謙譲の表現「いただく」に相当する表現はないし、補助動詞的用法の「～てもらう」や「～ていただく」に相当する表現はない。

つまり「もらう」より「～てもらう」の平均点が有意に低かったということは、母語に存在しない用法の習得が困難であると

いうことを示唆している。さらに、「いただく」も「～ていただく」もともに母語には存在しない表現であるにもかかわらず、「～ていただく」の平均点の方が有意に低かったということは母語に存在しない表現の中でもより有標な表現の習得が困難であるということが言える。言い換えれば、「いただく」も敬語要素を含むという点では有標ではあるが、「～ていただく」は敬語要素を含んでいる上にさらに補助動詞的用法であるという点で二重に有標であり、「いただく」よりも有標性の度合いが上回っているということである。

結局、「もらう」と「くれる」の平均得点の差がいずれのレベルにおいても見られなかったことから、「もらう」と「くれる」の困難さには差がないということになり、「もらう」系授受表現の補助動詞的用法である「～てもらう」と「～ていただく」のほうが習得に時間がかかるということが明らかとなったわけである。つまり、韓国人の日本語学習者にとっては、従来授受表現の中で一番難しいと言われてきた「くれる」系の表現全体よりも、「～てもらう」と「～ていただく」のほうが習得がより困難であるということであり、岡田(1997)の調査結果とは一致しない結果となった。同時に、母語と目標言語との対応関係において「対応」<「統合」<「削除」<「導入」<「分化」の順に習得の難易度が上がるという野田他(2001)の仮説をも支持しない結果となった。

VII まとめ

本稿で韓国人日本語学習者の授受表現習得について明らかになったことは、最も難しいと言われてきた「くれる」系の授受表現と同様に「もらう」系授受表現の補助動詞的用法にも難しさがあるという点である。

本研究を通して、母語と目標言語の精密な対照研究と、諸言語における有標度の度合いを見ることにより、第二言語の学習において起こりうる問題点を予測し、さらには第二言語習得における母語の役割を明らかにできる可能性のあることが明らかになった。

韓国人に対する日本語教育においては、母語である韓国語と目標言語である日本語の間に語彙や構造の類似が多いため、学習者は「日本語は易しい外国語だ」という認識を持っている場合が多いが、安易に構えて韓国語風日本語にならないように学習者の注意を喚起し、この授受表現のように母語とは異なる表現はもちろん、似ている表現でも微妙な用法の違いなど細かく指導する必要がある。

今後は、各項目間のレベル別平均の差の検定で二元配置分散分析を行うことをはじめとして統計的分析における危険率の希薄化を防ぐ調整を行うことと、「あげる」系授受表現の補助動詞的用法の使用について調査することを課題とする。また母語の異なる日本語学習者と比較することによって授受表現の習得にどのような違いが見られるのかを検討し、ひいてははまだ結論が出ていない第二言語習得に与える母語の影響がどのようなものなのかを追究していきたいと考えている。

注

- 1 言語類型論における含意的普遍性とは「現象Xの存在がYの存在を含んでいるがYの存在はXの存在を含んでいないとき、XがYよりも有標である」とされており、統計的に優勢な言語の特徴が無標 (unmarked) である。
- 2 「ウチ」とは、話者の家族や話者が所属している組織の一員など、話者が自分寄りの立場にあると考えている人物のことで、「ソト」はそれ以外の第三者のことを指す。
- 3 本稿では、「あげる」と「やる」はほぼ同じ待遇素性を持つものと見なし、「あげる」を見出し語として扱うことにする。
- 4 ただし、「주다 (juda)」の「受け手」が話者と一致する命令文（およびその引用文）に限って用いられる特殊な命令形「달라 (dalla)」はある。
- 5 野田他 (2001) では母語を英語、目標言語を日本語と仮定して、「対応」は過去形、「統合」は「～ている」（英語では現在完了形と現在進行形に相当）、「削除」は複数形・冠詞、「導入」は助詞の「は」、「分化」は「ある」と「いる」（英語では区別なし）という例を挙げている。
- 6 ACTFL (1999) の基準ではOPIによる口頭表現能力の判定は初級一下から超級までの10段階に分かれているが、今回の調査では初級一下にあたる被験者はいなかった。
- 7 表中央より右上側で空欄の部分にあたる表現の対は、検定を行わなかった。
- 8 注4の「달라 (dalla)」に関する記述参照。

参考文献

ACTFL (The American Council on the Teaching of Foreign Languages) . 1999. 「ACTFL-OPI 試験官養成マニュアル (日本語版)」アルク.

Eckman, F. R. 1977. Markedness and the contrastive analysis hypothesis. *Language Learning*. 27 (2) : 315-330.

江田すみれ. 1982. 「『てやる・てくれる・てもらう』とタイ語の表現 —hài の用法に注目して—」『日本語教育』49: 119-132.

堀口純子. 1983. 「授受表現にかかわる誤りの分析」『日本語教育』52: 91-103.

黄順花. 1994. 「日本語の『～してもらう』에 관한 韓國語와의 對照研究 (I) — 우리말 『해 받다』의 使用範圍調査를 中心으로—」『日本學報』33: 365-384.

鄭寅玉. 1994. 「日本語教育における日・韓国語対照研究 —受け身文を中心に—」『日本語教育研究』28: 59-78.

Kellerman, E. 1983. Now you see it, now you don't. In Gass, S. and L. Selinker (eds.) . *Language transfer in language learning*. Newbury House.

Larsen-Freeman, D. and Long, M. 1991. *An introduction to second language acquisition research*. Longman.

野田尚史・迫田久美子・渋谷勝己・小林典子. 2001. 『日本語学習者の文法習得』大修館書店.

Odlin, T. 1989. *Language Transfer: Cross-linguistic influence in language learning*. Cambridge University Press.

岡田久美. 1997. 「授受動詞の使用状況の分析 —視点表現における問題点の考察—」『平成9年度日本語教育学会春季大会予稿集』: 61-86.

奥津敬一郎. 1979. 「日本語の授受動詞構文 —英

語・朝鮮語と比較して—」『人文学報 (東京都立大学)』132: 1-27.

——— 1983. 「授受表現の対照研究 —日・朝・中・英の比較—」『日本語学』2 (4) : 22-30

奥津敬一郎・徐昌華. 1981. 「『～てもらう』とそれに対応する中国語表現 — ”清”を中心に—」『日本語教育』46: 92-104.

坂本正・岡田久美. 1996. 「日本語の授受動詞の習得について」『アカデミア』文学・語学編 61: 157-202.

서울大學校語學研究所 (編) .1988. 『韓日語對照分析』明志出版社.

資料（調査用試験問題）

* 文法的な判断力を見るテストです。【 】内のa～dのうち最も適当だと思つものに○をつけてください。

- (1) 友達から写真を【a. くれ b. ください c. もらい d. あげ】ました。
- (2) 私は田中先生に本を【a. やり b. いただき c. ください d. くれ】ました。
- (3) 母からイヤリングを【a. さしあげ b. もらい c. あげ d. くれ】ました。
- (4) 妹は友達から雑誌を見せて【a. あげ b. くれ c. ください d. もらい】ました。
- (5) 兄からおもしろいゲームを教えて【a. あげ b. やり c. もらい d. くれ】ました。
- (6) 兄はときどき私におこづかいを【a. くれ b. もらい c. あげ d. いただき】ます。
- (7) 姉はいつも恋人に家まで車で送って【a. あげ b. やり c. もらい d. くれ】ます。
- (8) 先生は私の弟に雑誌を【a. さしあげ b. あげ c. いただき d. ください】ました。
- (9) 私は田中先生に本を貸して【a. やり b. くれ c. いただき d. ください】ました。
- (10) 先輩からプレゼントを【a. さしあげ b. いただき c. ください d. くれ】ました。
- (11) 私は佐藤先生から贈り物を【a. いただき b. あげ c. ください d. さしあげ】ました。
- (12) 友達からときどきビデオを貸して【a. もらい b. ください c. くれ d. あげ】ます。
- (13) 友達のお母さんは私にお花を【a. ください b. さしあげ c. いただき d. やり】ました。
- (14) 妹は学科の先輩から教科書を【a. さしあげ b. ください c. やり d. いただき】ました。
- (15) 私は先輩のかばんを【a. さしあげ b. お持ちし c. いらっしやい d. ください】ました。
- (16) 母はときどき私の日本語の宿題を手伝って【a. やり b. あげ c. くれ d. もらい】ます。
- (17) 私は先輩からコーチをして【a. あげ b. いただき c. さしあげ d. ください】ました。
- (18) 佐藤先生から写真を見せて【a. さしあげ b. ください c. くれ d. いただき】ました。
- (19) 姉の先生は姉によくEメールを【a. やり b. さしあげ c. ください d. いただき】ます。
- (20) 妹は友達から誕生日プレゼントを【a. ください b. もらい c. くれ d. あげ】ました。
- (21) 先輩がいつも私に勉強を教えて【a. ください b. あげ c. さしあげ d. いただき】ます。
- (22) 佐藤先生が毎日に日本語の本を【a. もらい b. ください c. いただき d. さしあげ】ました。
- (23) 父の上司が毎日にプレゼントを買って【a. さしあげ b. ください c. いただき d. もらい】ました。
- (24) 母の友達が毎にきれいなブローチを【a. あげ b. ください c. いただき d. さしあげ】ました。
- (25) 兄はいつも先輩からいろいろな仕事を教えて【a. いただき b. ください c. くれ d. さしあげ】ます。
- (26) 父は会社で上司に新しいコンピューターを買って【a. いただき b. くれ c. やり d. ください】ました。

韓国人日本語学習者の授受表現の習得について

- (27) 今日、弟は日本人の先生に発音を指導して【a. ください b. いただき c. やり d. さしあげ】ました。
- (28) 兄の友達は自分の家族の写真を見せ【a. さしあげ b. くれ c. もらい d. あげ】ました。
- (29) 母はときどき高校時代の先生から手紙を【a. くれ b. ください c. いただき d. さしあげ】ます。
- (30) 兄の先生はときどき兄に手紙を送って【a. やり b. いただき c. さしあげ d. ください】ます。
- (31) 姉は会社の上司から旅行のお土産を【a. さしあげ b. あげ c. ください d. いただき】ました。
- (32) 社長が私の母に特別ボーナスを出して【a. やり b. いただき c. ください d. さしあげ】ました。
- (33) 私は先週、とても難しいむずかしい日本語会話の試験を【a. 見 b. 受け c. もらい d. いただき】ました。
- (34) 小林さんは私にお花を【a. もらい b. あげ c. くれ d. いただき】ました。とてもうれしかったです。
- (35) 父の上司はいつも旅行のお土産を父に【a. もらい b. さしあげ c. ください d. いただき】ます。
- (36) 友達はいつも私にCDを貸して【a. やり b. もらい c. あげ d. くれ】ます。私は今日も1枚借りました。
- (37) 父が私に日本語の辞書を【a. やり b. あげ c. もらい d. くれ】ました。私は毎日その辞書を使います。
- (38) 佐藤先生は午後いつも学校に【a. いらっしやい b. いただき c. ください d. まいり】ます。
- (39) 私は早川さんに時計を【a. くれ b. やり c. ください d. もらい】ました。今日は私の誕生日でした。
- (40) 山田さんが私の弟にお菓子を【a. あげ b. もらい c. やり d. くれ】ました。私も弟と一緒に食べました。
- (41) 小林さんはとても親切です。私に難しい漢字を教【a. くれ b. あげ c. いただき d. もらい】ました。
- (42) 姉がおいしいレストランを紹介して【a. さしあげ b. くれ c. あげ d. もらい】ました。明日友達と行きます。
- (43) 私は父と一緒に父の上司の家に【a. さしあげ b. ください c. いらっしやい d. 伺い】ました。
- (44) 田中先生はいつも私に日本語の辞書を貸して【a. ください b. あげ c. さしあげ d. いただき】ます。
- (45) 友達のお母さんが私の妹に本を買【a. さしあげ b. いただき c. ください d. もらい】ました。
- (46) 私は姉に帽子を【a. もらい b. くれ c. やり d. ください】ました。私は今日もその帽子をかぶりました。
- (47) 昨日は私の誕生日でした。それで山田さんがプレゼントを【a. さしあげ b. くれ c. もらい d. あげ】ました。
- (48) 妹は漫画が好きです。早川さんはときどき私の妹に漫画を【a. くれ b. あげ c. もらい d. さしあげ】ます。
- (49) 恋人にスキーを教【a. さしあげ b. もらい c. くれ d. ください】ました。おかげで私は上手になりました。
- (50) 兄はときどき日本の友達にCDを【a. もらい b. くれ c. さしあげ d. やり】ます。私も兄と一緒によく聞きます。
- (51) 私の母は日本語が上手です。それで母に私の日本語の作文を【a. あげ b. さしあげ c. くれ d. もらい】
ました。
- (52) 姉の恋人は最近よく姉にプレゼントを買【a. もらい b. やり c. くれ d. いただき】ます。だから姉はとても気分
が良さそうです。